

現状は「下降」超、先行きは「上昇」超

財務部



その1

県内企業の景況感

財務部が平成十二年十一月に県内の資本金一千万円以上の法人企業（金融・保険を除く）を対象に実施した大蔵省景況予測調査結果の概要を紹介します。

一 景況判断

現状（十二年十一月期）では製造業で「上昇」超幅が拡大しているものの、ウェイトの高い非製造業で「下降」超幅が拡大していることから全産業では「下降」超となっている。

先行きについては、十三年一～三ヶ月期は製造業で引き続き「上昇」超で推移するものの非製造業で「上昇」超に転じることから全産業でも「上昇」超に転じる見通しとなっている。

十三年四～六ヶ月期は製造業でわずかながら「下降」超に転じるもののウェイトの高い非製造業で「上昇」超で推移することから全産業では引き続き「上昇」超で推移する見通しとなっている。

二 売上高

十二年度下期は、製造業・非製造業とも増収とみており、全産業では三五%の増収見込みとなっている。

十二年度通期は、製造業・非製

造業とも増収とみており、全産業では三七%の増収見込みとなっている。

三 経常損益

十二年度下期は、製造業で増益とみているものの、非製造業で大幅な減益とみていることから全産業では十一・四%の減益見込みとなっている。

十二年度通期は、製造業で増益とみているものの、非製造業で減益とみていることから全産業でわずかながら二〇%の減益見込みとなっている。

四 従業員数

現状では、製造業で「不足気味」超に転じているほか、非製造業で「不足気味」超幅が拡大していることから全産業でも「不足気味」超幅が拡大している。

先行きについては、製造業で「過剰気味」超に転じるもののウェイトの高い非製造業で「不足気味」超で推移することから全産業でも「不足気味」超で推移する見通しとなっている。

五 所定外労働時間

現状では、大企業で「減少」超に転じているものの、中小企業で「増加」超で推移しているほか、中堅企業では「増加」超幅が拡大している。

先行きについては、中小企業で「増加」超で推移した後、「減少」超に転

じるものの大企業で「減少」超で推移した後、「増加」超に転じるほか、中堅企業では「減少」超に転じた後、再び「増加」超に転じる見通しとなっている。

六 金融機関の融資態度

現状では、中堅企業で「きびしい」超で推移しているものの大企業で「きびしい」超幅が縮小しているほか、中小企業では「ゆるやか」超に転じている。

先行きについては、中小企業で「きびしい」超に転じるほか、大企業、中堅企業では「きびしい」超で推移する見通しとなっている。

七 資金繰り

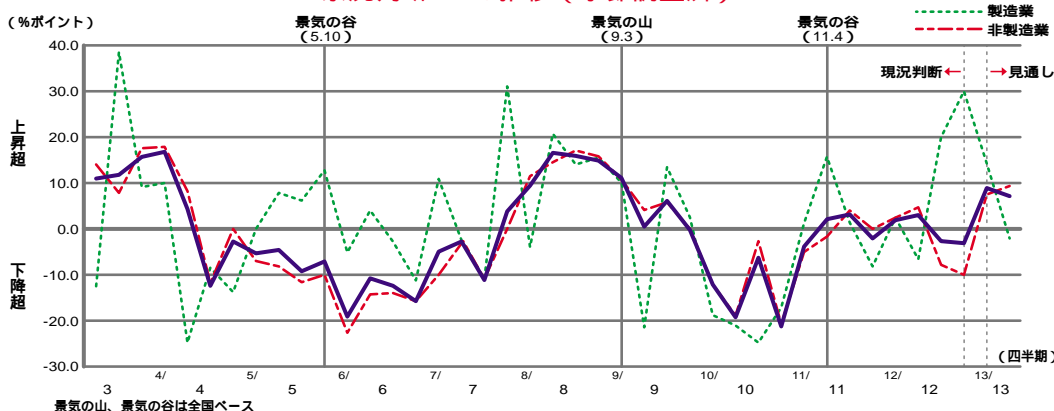
現状では、中堅企業・中小企業で「悪化」超で推移しているものの大企業では「改善」超に転じている。

先行きについては、大企業で「改善」超で推移するほか、中堅企業、中小企業では「悪化」超で推移した後、「改善」超に転じる見通しとなっている。

八 中期的な経営課題

中期的な経営課題についてみると、全産業では、国内販売体制、営業力の強化を挙げる企業が最も多く、次いで、後継者・人材確保・育成、新技術・新製品の開発、製品サービスの高付加価値化の順となっている。

景況判断BSIの推移（季節調整済）



BSIとは
景気動向指数（ビジネス・サーベイ・インデックス）をいい、表見方は次のとおりです。
BSI（「上昇」等と回答した企業の構成比）（「下降」等と回答した企業の構成比）